



この「広報あたみ」の10月号から冒頭見開き頁を使って行財政改革についての特集をしています。『読む気になる、分かりやすい』を目指し、レイアウト、見出し等を工夫してみました。皆さん、読んでいただけたでしょうか。

市は貯金である基金もあわずか、今後大きな税収増も見込めない緊縮財政です。これでは従来と同じ行政を続けていくことはできません。取捨選択をする必要が出てきます。当然、行政サービスの低下だと言う批判も受けますが、経済的窮状を乗り切るためには、家計と同様に何とかやり繰りするしかありません。

2007年11月19日の朝日新聞社説が『ご近所パワーが地域を変える』と題し、市民のアイデアと活力の活用により、コストダウンしながらも、私達の生活をもっと豊かにすることができると書いています。

例えば、徹底したゴミの分別によるゴミ排出量の削減、そして処理費用の低下。また、NHK番組『ご近所の底力』で紹介された「父母だけではなく、地域のお年寄り達にも協力を求めて、自宅周りの掃除や散歩時間を通学時間帯に合わせてもらうことにより、地域ぐるみで子供を見守ることに成功」といったものが上げられています。

まず行政が精一杯の努力を行い、市民の信頼を得ることが前提ですが、その上で、熱海丸の乗組員として、市民の皆さんにも是非、知恵や力をお貸しいただきたいと思います。



熱海市長 齊藤 栄

今の市政の大きなテーマに「新庁舎の建設」があります。現在の庁舎は建設から既に54年が経過し、特に庁舎本館、庁舎新館、観光会館は耐震性が劣り建替えを必要としています。現在熱海市は財政が大変厳しい状況ですが、災害時の司令塔としての機能などを確保するためにも庁舎の建替えは避けることができないと考えております。

昨年の市長就任早々11月の1か月間を「新庁舎建設についてご意見を伺う月間」とし、市長タウンミーティングをはじめ様々な形で市民の皆様の意見を聞き、また同時に熱海市の財政状況について積極的な情報公開を行いました。その結果、①着工の一年延期（平成20年度内の着工を目標）②規模の縮小（職員の削減数を踏まえて最小限の規模とする）③市民参加型の設計方式という3つの基本方針を定め、今日まで必要な作業を進めてきました。

特に力を入れたのは「市民参加型の設計方式」です。去る8月に「第1回新庁舎建設市民会議」を開催しました。この会議は市民の皆様の意見を最大限に設計に取り入れるため、庁舎建設審議会委員、市内各地区の代表、公募市民（6名）など21名で構成され、これまで神奈川県内の視察も含め3回開催し、活発な意見交換が行われています。また、「みんなで作る熱海市庁舎」というプログラムを立ち上げ、資料やワークショップの内容、参加者の意見や感想などを市役所のホームページから見ることが出来ます。会議は計5回行う予定です。が、どなたでも傍聴が可能です。是非ご参加ください。



熱海市長 齊藤 栄

昨年9月14日に市長に就任して一年が過ぎました。この日を迎えられたことを心から感謝しております。本当にありがとうございます。

この一年間、特に力を入れたことの一つ目は「情報公開」です。ホームページでの市長交際費の全面公開、タウンミーティングなどを通しての財政状況の積極的な公開、観光戦略会議などほぼすべての会議の公開、そしてその議事内容についてもできるだけ速やかにホームページに掲載してきました。この結果、市民の皆様の熱海市の財政状況についての理解を深め、また政策形成の過程についてもお知らせすることができたと思います。

二つ目は「市民参加」です。市政は市役所職員だけでは成り立ちません。より多くの市民の参加が不可欠です。観光戦略会議の市民公募には40名を超える方々の応募をいただきました。庁舎建設に対してより多くの市民の意見を反映させるための庁舎建設市民会議もスタートさせています。先日、ある飲食関係の団体が熱海市の財政事情を考慮して、補助金の申請を辞退されました。これも一つの市民参加だと思えます。

無我夢中で駆け抜けたこの一年でしたが、「熱海改革元年」として、何とかスタートが切れたのではないかと考えています。今後は、行財政改革などこの一年間に行ってきたことを土台にしながら、観光やまちづくりのビジョンづくり、子育て、教育、高齢者福祉、定住人口増、企業誘致などの課題に取り組んでいきたいと思えます。

## 新図書館オープン

熱海市長 齊藤 栄



8月1日、新図書館がオープンしました。場所は上宿町東京電力熱海営業所の3〜5階を使っています。市役所から歩いて5〜10分程度でしょうか。以前の図書館と比べて、広く、明るく、そして開放的な印象です。図書館の移転は新庁舎建設の一環として、文化会館が取り壊されるために行われました。

新図書館の特徴は3つあります。一つ目は、延べ床面積がこれまでの約2.5倍になったこと。二つ目は、会議室や学習室を充実させたこと。三つ目は、ボランティア活動室が設けられたことです。また、児童書コーナーを充実させるとともに、幼児の皆さんのためにくつを脱いであがれるスペースも用意しました。

さらなる特徴は、新図書館の運営が多くのボランティアによって成り立っているということです。現在、新図書館に勤務する市職員は10名（臨時職員を含む）ですが、既に約20名のボランティアの方々が登録されています。受付業務を中心に多分野にわたってお仕事をお願いしています。

新図書館の使い方についてはこれからです。熱海の歴史や文化についての情報発信の場、そして市民の地域活動の拠点としての使い方などが考えられます。私は新図書館を「市民の皆様とともに創っていく図書館」にしていきたいと考えています。こんな使い方がある、こんなふうに改善したらもっと使いやすくなるなど、是非、市民の皆様のお意見をお寄せいただきたいと思います。



## 熱海コンシエルジェ

熱海市長 齊藤 栄

7月1日より、JR熱海駅構内の熱海駅観光案内所「熱海コンシエルジェ」がリニューアルオープンしました。コンシエルジェとは、フランス語で「案内人」という意味です。熱海市内は勿論、伊豆や箱根の玄関口としての観光案内も行います。リニューアルにあたり「熱海コンシエルジェ」の2つの新たな取り組みを紹介します。

一つ目は、FM熱海湯河原のサテライトスタジオの設置をしたことです。毎週土・日曜日、午前9時～12時までの3時間、生放送を実施しています。ここで熱海の「ライブ感」を演出します。

二つ目は、42インチモニター画面を使った映像です。花火やこがし祭りといった年間の行事を「ビジュアル」にお伝えします。

4月以降、熱海駅観光案内所の利用者数はゴールデンウィークが最多でした。この夏休み期間中はそれを上回る見込みです。家族連れ、団体、グループ、個人、外国人など熱海を訪れるお客様は様々です。「熱海コンシエルジェ」では、個々のお客様のニーズ（必要・要求）に対して、熱海の観光や文化、温泉、食事、おみやげ物、体験やアクティビティ（旅での遊び）など生きた情報を提供していきます。

しかし、あくまでも熱海の街中の「コンシエルジェ」は、市民の皆様お一人おひとりであり、皆様の親切心とホスピタリティー（おもてなしの心）が、熱海を訪れるお客様を最も喜ばせるものです。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



## 市民による景観シンポジウム



熱海市長 齊藤 栄

先日、起雲閣で「熱海の観光と景観を考える市民の集い」が開かれました。固いテーマにも関わらず、市民の方々を中心に約50名が集まり、熱海の景観の整備や市民参加についての講演、パネルディスカッション、参加者による意見交換などが行われました。

今回特筆すべき点は、このシンポジウムが市民主催で行われた点です。企画から当日の運営まで、全て市民の手作りで行われました。私も当日はスーツを脱ぎ、市民パネリストとして、日本景観学会の理事、大学の准教授等と意見を交わしました。

私は、2030年を目標に、熱海を世界に開かれた『長期滞在型の保養地』にしたいと考えています。そのためには、世界の保養地に値する「景観」の整備が大きな鍵になります。景観整備は一朝一夕にできるものではありません。同じ価値観、美意識を共有して、長い歳月を掛けて創りあげて行くものです。実現が非常に困難なだけに、熱海の大きなアピールポイントとなります。

20年、30年先に、どのような熱海を我々は子供たちに残して行くのか。皆で議論を交わし、意識合わせをし、それを守って行く地道な作業が必要です。このことを市役所が単独で行うことは不可能です。市民主導で行われて、はじめてうまくいくものだと思います。景観の整備を通して、熱海の未来のため、市民と市役所と一緒に知恵と力を出し合う「協働のまちづくり」を行いたいと考えています。皆様のご協力をお願いします。



## 行財政改革会議

熱海市長 齊藤 栄

熱海市の行財政改革は待ったなしの状態です。平成17年度末現在、市民一人当たりの市債残高(市の借金)は約49万円、また人口千人当たりの市役所の職員数は13・3人とどちらも県内23市中最も高い数字です(普通会計ベース)。このため市では、4月に大学教授などの学識経験者2人を含む「行財政改革会議」を立ち上げ、この秋を目標に改革の方針をとりまとめる予定です。

改革のポイントは三つあります。一つ目は、「市役所のすべての仕事をゼロから見直すこと」です。市役所が今行っている仕事で、必要性が全く無い仕事はありません。しかし、予算や人の配置など、そこにはおのずと制限があります。先入観を無くし、市役所が本来やるべき仕事の優先順位を付けていきます。

二つ目は、「市役所改革の議論を全職員で行うこと」です。私は職員に「新しい市役所をデザイン(設計)する気持ちで、すべての職員が自分の仕事の見直しを行って欲しい」と言っています。三つ目は「市民の皆様のご意見をうかがうこと」です。改革の方針のたたき台ができた段階で、タウンミーティングその他の方法で、皆様の意見を広くうかがう機会を作りたいと考えています。行財政改革の道のりは決して平坦なものではありませんが、「熱海の再生」のためには避けて通れません。平成23年度の財政健全化を目標に職員と一丸となって取り組んでまいりますので、市民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

※1 市民一人当たりの市債残高：静岡県自治財政室「平成17年度市町財政の状況」より

※2 人口千人当たりの職員数：静岡県自治行政室「平成18年地方公共団体定員管理調査」より



## 市議会議員選挙

熱海市長 齊藤 栄

さる4月22日、熱海市議会議員選挙が行われ、19人の議員が決まりました。選ばれた議員の皆さんには「市政は市役所と市議会の両輪で進める」ということを認識いただき、議会において皆さんと、熱海再生のためのしっかりとした議論を行っていききたいと思います。

今回の選挙で特徴的だったことは、まず新人候補が7人出馬し、そのうち6人が当選されたことです。このことは「市民の皆様市政改革に対する期待の表れ」ではないかと考えます。今の熱海にとって、ベテラン議員の経験はもちろん不可欠ですが、新人による新しい風が求められたのではないのでしょうか？

もう一つの特徴は3月議会で決定した議員定数の削減です。議員定数が前回の選挙から2人削減され、19人となりました。議員定数削減の是非については、さまざまな議論がありますが、今回の削減の決め手となったのは、議長に対する市民団体の要望書の提出でした。私は市民の民意が議会を動かした大きな事例だと思っています。

一方で課題も残ります。今回の選挙の投票率は67・18%と戦後最低だった前回をさらに下回りました。私は有権者の意見を少しでも多く反映させるためには、一人でも多くの方が投票に行くべきだと考えます。そのためには、高齢者や障害者の方々が投票しやすい環境づくりが大切とお思います。特に、投票所のバリアフリー化や期日前投票所の充実は重要でありますので、選挙管理委員会へ働きかけてまいります。



## 観光戦略室の新設について

熱海市長 齊藤 栄

4月1日に市役所の中に新しい組織が生まれました。私の選挙公約でもある「観光戦略室」です。観光戦略室がなぜ必要か？熱海市は昭和40年代前半には年間約530万人もの宿泊客がありましたが、現在は290万人程の状況です。まずこの原因をしっかりと見つけたいと思います。例えば、花火は今の時間帯や規模で上げるのが一番いい方法なのでしょうか？一年に一回、「全国一」の規模で行ってみることも必要ではないでしょうか？観光客の皆さんの不満をきちんとお聞きしているでしょうか？タクシー運転手の皆様から、観光帰りのお客様の本音をもっと聞き出したらどうでしょうか？これまで観光商工課の職員は多くのイベントの開催などに振り回され、このようなことを行う十分な時間を持つことができませんでした。

観光戦略室には市職員以外の「外部の力」も積極的に活用する予定です。観光戦略会議のメンバーには、観光を専門にする大学教授、国の機関の職員（国土交通省）などのほかに、公募で選ばれた市民の皆様にも委員として参加いただきます。熱海市内には、観光に対して知見や意見のある市民の皆様がたくさんいらっしゃいます。外に向かって開かれた議論の場を作りますので、是非ここで活躍していただきたいと考えております。

観光戦略室は設置したばかりの新しい組織です。試行錯誤を重ねることになると思いますが、市民の皆様と一緒にあって、熱海の観光再生を図っていききたいと思います。

## 平成19年度の予算編成

熱海市長 齊藤 栄



平成19年の新年が明け、私にとっての最大の仕事が出来た。平成19年度の予算編成でした。

既に「財政再建スタート宣言」でお伝えしたように、熱海市の財政は大変厳しい状況にあります。予算編成に当たって私が最も留意したのが、財政の健全化です。現時点でできる限りの削減を行いました。具体的には、道路建設や公園整備の抑制を行うとともに、市民サービスに係る経費の一部を削減させていただきました。また、私をはじめ特別職の給与の引き下げ、補助金の削減などを行いました。一方で、地域経済の活性化には配慮し、「観光振興」や「商店街振興」などについては新規の予算を計上いたしました。

以上により、一般会計は百八十一億九千万円、特別会計、公営企業会計を合すると三百八十六億三千七百万円余となり、昨年度比でそれぞれ1・6%減、2・2%減の予算規模となりました。しかしながら、これらの歳出に見合った歳入が確保できず、やむを得ず基金を取り崩しての予算編成となりました。

平成19年度においては、行財政改革会議の討議のもと、定員適正化計画を超える職員数の削減、市役所が行っている全ての事務事業の見直し、各種施設の民営化などを図り、平成20年度以降は歳入規模に見合った歳出としていきたいと考えています。

市民の皆様から預かった大切な税金を、一円も無駄にすることはできません。熱海市の財政再建に全力で取り組んでまいります。

## 財政再建スタート宣言

熱海市長 齊藤 栄



1月25日に、私は昨年出しました「熱海市財政危機宣言」を「熱海市財政再建スタート宣言」に変更いたしました。

この「危機宣言」に対して、多くの市民の方からご意見をいただきました。ある団体の方からは、「市長さん、これまで市役所のバスをお借りして施設見学などを行っていましたが、これからは自分たちで何とかしようと思います。市の財政が厳しいのであれば、私たちも協力します。」と仰っていただきました。私は、市民の皆様にも市の財政状況を知っていただけたことに意味があったと思っております。

また一方で、この宣言によって、「観光地熱海のイメージダウンにつながる。」とのご批判をいただき、ご迷惑をおかけしたことは、重く受け止めております。

今回の変更は、これらを受けて行ったものです。今後は、平成23年度での財政健全化を目標に、官民が一体となって財政再建のための具体的な施策を作っていきます。財政再建の道のは決して平坦なものではありません。厳しい判断をしなければならぬ局面が何度も出てくるのが予想されます。しかしながら、「熱海の再生」のためには避けて通れない道です。

これから、職員と一丸となって、財政再建に取り組んでいきます。市民の皆様の深いご理解とご協力をどうかよろしくお願いいたします。